

自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立勝呂小学校
実施日	令和3年2月

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○学校だよりを月に複数回発行し、学校の教育活動を保護者に説明している。 ○行事が終わった後は、スズキ校務でアンケートを取り、改善事項を来年度に生かしている。 △全職員で周知したほうがいい事柄等、共通理解の部分は不十分である。	A	・教育目標や教育内容の重点化が具体的である。 ・特色ある教育活動が図られている。 ・学校だよりが、月に複数発行されているが、どんなことを子どもに話しているかどんな教育活動を行っているかとても分かりやすく説明していて、学校の取組がよく分かる。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○生徒指導教育相談委員会等で、学級でのトラブルを、学年及び学校全体で共有し、対応を協議することが出来た。 ○安全主任を中心とした避難訓練の実施を計画的に行っている。	A	・コロナ禍の中で危機管理がしっかり取り組まれていた。 ・各部会、委員会、主任さん等との連携ができていように感じる。 ・危機管理マニュアルや緊急連絡体制の見直しを毎年行っている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	○打刻ちゃんで、勤務時間の把握が出来ている。 ○「充電年休」を設定し、1日だけだったが計画的に年休を取得することが出来た。 △ふれあいデー(ノ一残業デー)を設定しているが、実施は早く帰れない状況にある。業務内容の定期的な見直しが必要である。	B	・地域や学校の特色もあることで、教職員が互いに協力できていればよいと思う。 ・計画年休は評価○ ・ノ一残業デー等教職員の勤務体制の改善は、なかなか難しいと思われる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	B	○学校研究課題を通して学年ごとやブロックごとに授業を行い、授業に役立てていた。 △コロナ禍のため、積極的な対話的な学びを行うことが出来ない状況である。 ・学力学習状況調査の結果をさらに分析し、全体で取り組むよう設定し変化をつけることよい。	B	・タブレット等を使い、子どもたちで調べて話し合い、調査し分析しながら学べる授業を工夫してよい。 ・学年によって、県の平均を下回っている学年があるので、その学年は工夫や努力が必要である。 ・コロナ禍であっても工夫した授業改善に取り組む必要性はあると思う。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	○人権週間の取組を通して、豊かな心を醸成することが出来た。 ○算数の少人数指導に関しては、一人ひとりに寄り添い、個に応じた指導を実践している。 ・生活アンケートの内容や項目に見直しが必要。 (自分で自分の言動を振り返らせることも必要)	A	・コロナ禍の中で例年通りの学習ができなかったと思うが、工夫され取り組んでいるようにみえる。 ・道徳の授業時間の確保、内容の充実に着手する。 ・人権週間の取組や算数の少人数指導等、個に応じた指導を実践している。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○あいさつは、地域の方々からはよく挨拶が出来ているとお褒めの言葉をいただくことが多い。 ○「勝呂小学校 授業10の約束」を教室に掲示し意識させることで、子供たちは規律ある態度で授業に臨んでいる。 △挨拶・言葉遣いは課題である。	B	・あいさつよくでき、子どもの活動の様子を見ていると、目標は達成できていると思う。 ・児童で、進んであいさつができる子がいることは喜ばしい。 ・「勝呂小学校授業の10の約束」はとてもよい。 ・あいさつ、言葉遣いに課題…教職員同士が心配です。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	○不祥事の記事を職員に配布したり、倫理確立委員会を定期的に開催したりし、教職員事故や不祥事根絶に努めている。 ○不祥事防止のための意識啓発を、「校長室から」の通信や職業で随時行っている。	A	・現在は意欲的に取り組まれているようだ。管理職の努力だと思ふ。 ・校長先生からの通信など ・不祥事の記事を配布したり、倫理確立委員会を定期的に開催したりと教職員事故や不祥事根絶に努めていること。 ・教職員皆さんで不祥事根絶に努めてよいと思う。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にする態度で接している。	B	○すべての児童に対して「さん」付けで呼んでおり、児童一人ひとりに寄り添いながら指導や支援をしている。 △指導のときの言葉遣い・子どもの名前の呼び方等、毎年確認があるのに、改善されていないのが気になる。	B	・教職員は、一人ひとりをよく見て、良いところをみつけて、温かく対応されていると思う。 ・児童一人ひとりに寄り添いながら指導や支援をしている。 ・言葉遣い等、指導の徹底を要する。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	○担任同士が連携しながら、交流学級において児童の交流が活発に行われている。 ○夏季休業中の特別支援教育についての研修は有意義であった。 ○夏の研修会では、具体的な話を聞くことができた。	B	・交流学級との連携 ・特別支援教育の研修や担任同士が連携をしながら交流活動が行われている。 ・勝呂小に限った事ではないが、特別支援学級の在り方と通常学級の交流等を考え、工夫が必要である。
	10	学校は、安心安全で機能的な学習環境整備に努めている。	B	○月1回の安全点検が確実に実施され、修繕も行われている。 ○備品は担当者が、廃棄と購入を相談し合いながら的確に行っている。 △掲示物の定期的に確認が必要。また掲示物も多いので厳選する。	A	・予算内で、学習環境整備等がなされている。 ・安全点検が定期的に行われている。 ・掲示物で使用されている画紙が落ちていることがないよう定期的に確認してもらいたい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	○ホームページは学校だよりが発行されるたびに更新している。 ○防犯に関する情報は、情報が入り次第メールで保護者や地域に配信している。 △ホームページの活用をもっとしたほうがよい。	B	・ホームページが定期的に更新されていてよい。毎月の学校だよりも工夫されていて素晴らしい。 ・メールで、防犯情報を保護者や地域に配信している。 ・ホームページの開設により情報提供が行われている。メールにて保護者に情報が行き届いている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○リモートで参加していただくなど、地域の人材を授業に活用していた。 ○スタディウィークの充実が図れ、家庭学習の習慣が定着した。 ○不登校については、さわやか相談員やスクールカウンセラー等、他機関と連携できた。	A	・コロナ禍の影響で中止になっている行事もあるが、地域に根ざした教育活動になっている。 ・不登校対応…他機関との連携 ・通学路点検の確認、「子ども110番の家」の協力者も多く子どもの登下校の安全につながり安心できる。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	○小中連絡会は1回のみの開催であったが、とても有意義であった。 △コロナ禍のため、小中連携がうまく機能しなかった。 △職種や児童生徒の成長段階が違うせいか、生活の決まりなどの共有ができていない。	B	・小中の連携は、授業の参観だけではなく、その後の小中の問題点の話し合いが必要。 ・コロナ禍での小中連絡会での工夫、内容の精選(リモート、オンライン等) ・教職員が実際に小中を行き来し現場を視察したり、情報交換を行っていることは、良いこと。